

パルプ・紙製造業における死傷災害発生事例（2017年）

年	月	発生時	死傷災害発生事例	年齢	起因物 (小)	事故の 型	労働者 規模
2017	1	10～ 11	当社工場内において、抄紙されたジャンボロールをリワインダー機にセットする際、手元が滑り、誤って左中指をリワインダー機の繰り出しローラーの間で挟み負傷した。	61	163	7	10 ～ 29
2017	1	7～8	本社工場2F西側にある抄紙部門にて、朝、マシン停止後に同僚がルーシブローアのVベルトに亀裂を発見し、被災者と2人で交換作業をはじめた。本来はベルト交換の際にはテンションを緩めて行うという作業手順であるが、それを守らず張った状態で作業を行ってしまった。その為、1本目を掛け、2本目を入れる為に同僚が注意を促しながら1本目のベルトを押しした際、被災者がベルトの内側を掴んで引っ張ったため、勢いでプーリーとベルトの間に左手小指を挟んでしまった。	41	169	7	30 ～ 49
2017	1	21～ 22	両番勤務のため、第一駐車場に到着し、徒歩で職場に向かった。DWPシート運搬作業中のパトライトが点灯していたので、道路脇の決められた歩行者通路を通行した。この時、通路上にパルプ原料が約30mm程堆積していたので、注意しながら歩行していたが、パルプ原料で右足が滑り、右足首を捻った。	32	417	19	100 ～ 299
2017	2	11～12	抄紙機3号マシンカレンダーパートにて、結露防止対策の為にカレンダーセカンドロールに紙を巻き付ける作業を、ロールの昇降係と昇降指示をしながら紙を巻きつける係の2名1組で行っていた。紙を巻きつけるにあたりセカンドロールを降下する際に、セカ	33	163	7	50 ～

			ンドロールが駆動しているボトムロールに接触し回転してしまった 為に、左手がセカンドロールとサードロールの間に挟まり受傷し た。				99
2017	3	0~1	レワインダー芯棒供給装置で、芯棒台車から中継テーブル間の搬送 アームから芯棒が脱落したため芯棒供給装置内に入り、手で修正し ようとした。その際に中継台車が動き、フレームと中継台車の間に 挟まれた。	49	169	7	500 ~ 999
2017	3	8~9	仕上室で台車（カッターカゴ）にある平板損紙の仕込作業を行って いたが、その日は損紙の入った台車が沢山あったので3人で作業を 行っていた。ドンと大きな音がしたので共同作業者が振り返ると、 倒れこんでいる被災者を発見した。脳しんとうを起こしており、救 急搬送された。状況としては損紙を両手に抱えパルパーへ投入して いたが、損紙で足が滑り転倒し、身体をパルパーの側面に強打し、 首をひねったものである。	67	416	2	50 ~ 99
2017	4	18~ 19	作業終了後に2Fで手洗い等をして階段から1Fに下りた時、残り3段 のところで足を滑らせて転落した。	39	413	1	300 ~ 499
2017	4	11~ 12	当社工場内で、断裁機で断裁後の紙の束（85cm×64cm厚さ約5cm 重量約12kg）を手で持ち上げて作業台Aから1m程離れた作業台Bに 移動させようとした際、作業台Aの端に足を引っかけてしまい転倒 し、腰を強く打った。	63	419	2	10 ~ 29
2017	5	15~ 16	工場内で紙の抄造作業中、抄紙機で巻き取りロールに紙を送る際の 姿勢が不安定であったため、ドラムと巻き取りロールの端で指を挟 んでしまった。	67	163	7	10 ~ 29
2017	5	16~ 17	電気の配線作業中に、高さ180cm程のトタン製の壁に登ろうと、壁の 中間にある鉄骨部分に足をかけたところ滑り、その拍子にトタン上 部で手首を切ってしまった。	35	418	8	10 ~ 29

2017	7	9~10	組長と一般職の2名作業でアンモニア水タンクの液面計管付き弁の閉止作業に着手（液面計異常点検のための準備作業）一般職がレンチにて弁の閉止作業をした直後に弁本体がフランジ部から脱落し、噴出したアンモニア水（濃度25%）が2名にかかった。一般職は防液堤外に脱出したが、組長が気化したアンモニアを吸引。意識を失い防液堤内に仰向けに倒れこんだと推定。連絡を受けて救助に向かった課長が、空気呼吸器を装置の上、防液堤内から組長を救出し、救急車にて搬送。	41	514	12	500 ~ 999
2017	7	17~18	構内にて、4tトラック（ウイング車）を停車し、荷降ろしのため同トラックより降りる際、慌てて飛び降りたため、誤って右足小指を骨折負傷した。	52	221	3	10 ~ 29
2017	7	14~15	プリントスロット（段ボールシートに印刷・折り線切り込みの加工をする機械）での作業中スタッカー（プリントスロット加工後のシートを積み上げていくためのベルトコンベアーの機械）にまたがり作業をしていた。スタッカーの裏側の配線にろう電がありスタッカーの機械を通じて足側から感電したと思われる。	48	224	13	1~ 9
2017	7	14~15	プリントスロット（段ボールシートに印刷・折り線・切り込みの加工をする機械）での作業中、スタッカー（プリントスロット加工後のシートを積み上げていくためのベルトコンベアーの機械）にまたがり作業をしていた。スタッカーの裏側の配線にろう電があり、スタッカーの機械を通じて足側から感電したと思われる。	48	224	13	1~ 9
2017	7	10~11	トイレットペーパーの製造工程において、原紙（ジャンボロール）のコアプラグ（約20kg）を外す際、自分が予想していた以上にコアプラグが重く、その重さに耐えきれず地面に置いた際、指を挟み負傷した。	27	163	7	100 ~ 299
			ワインダーコアー自動供給装置にて、コアー台車のセット不良アラームが発生したので台車セット用リミットスイッチに不具合があると考え、一旦パネル操作にて台車保存装置を開放とし、すぐに固				

2017	7	6~7	定側へスイッチを着替えたのちリミットスイッチの作動を確認（台車保持装置開放とした事で台車が固定ブラケットより100m/m程離れた）この時リミットスイッチがONとなり保持装置が作動、離れていた台車が引き寄せられ、台車と固定ブラケットの間に右手中指が挟まれ被災した。	42	169	7	100 ~ 299
2017	7	19~ 20	被災者は新聞用紙を紙管に巻きとらせる作業に併せて別の作業を行っていた。巻き取り作業中、設備のフレーム部分に左足をかけたまま振り返り、右回りに旋回して移動しようとした際、フレームとアンカーボルトの隙間に左足が嵌り体勢を崩した。その際、左足首に無理な力がかかり被災した。	26	417	19	50 ~ 99
2017	7	15~ 16	巻き取り解体作業場において、フォークリフト運転手Aと補助作業員Bが翌日の巻き取り解体作業の準備の為に巻き取りブロックをフォークリフトを使って中央列から後方へ移動中に（後へバックし、左端へ持って行く途中）止め木がはずれ、フォークリフトから巻き取りブロックがころがり落ちた。その際に前方左端に待機していたBに当たり、巻き取りブロックと安全ガードの間にはさまれ被災したとみられる。	66	611	3	30 ~ 49
2017	7	19~ 20	休憩室にて空の牛乳ビンを回収箱へ戻そうと通行中、下に置いていたスノコに躓き転倒した。その際、コンクリートの床に右膝を強打ち負傷した。	40	417	2	10 ~ 29
2017	9	9~ 10	加工2号機のワインダードラムロール部において、被災者は、ロールへの紙粉付着に気付き、ワインダー作業を一時停止させロール清掃を開始した。操作リモコンにより寸動を繰り返し清掃を行っていたが、ドラムロールが完全に停止する前に手を出し、製品巻き取りとドラムロールの間に右手人差し指を挟まれ被災した。加工途中でのロール清掃作業は、手順として認められておらず、危険作業に対する認識が欠如していた。	33	163	7	100 ~ 299

2017	9	23～ 24	N1マシンリール前で枠替え作業を実施違反を取り卸しフックに移動するため、クレーンを操作し原反を荷揚げした。原反を取り卸しフックに掛けようとしたところ、駆動側のシャフトがストッパーを越えてしまい原反が左右に回転した。振れを抑えようと咄嗟にシャフトの取っ手に手を出し、リールフレーム部とシャフトの間に指を挟み被災した。	38	211	7	100 ～ 299
2017	9	23～ 24	ロールとロールの間に紙を通す際、左手が巻きこまれ中指及び薬指を負傷、骨折する。	35	163	7	50 ～ 99
2017	9	13～ 14	北倉庫2階のロール置き場で、ロールの片づけをしている時に、ロール横のベアリングの上に乗った時、ベアリングの歯止めをしていなかった為、足を滑らせて後ろに腰から落ちて負傷した。	60	163	2	30 ～ 49
2017	10	9～ 10	当日、朝番勤務で抄紙機洗浄作業を実施していた。マシン内のアルカリ循環洗浄が終わり、マシンを停止させ、各所の洗浄作業で、ピット内を洗浄中、ドレン溝を高圧ガンにて、洗浄した際に、飛散した汚水が足にかかり受傷した。顔面にも飛散し受傷した。（水溶性苛性ソーダ48%）洗浄中濃度0.75%程度、洗浄終了排水時0.35%程度に希釈し排水させる。	26	514	12	100 ～ 299
2017	10	15～ 16	被災者は工場カラー調成荷下ろし場にて、セーフティブロックに安全帯を装着してトラック荷台上のフレコンに乗り、階上上げのため玉掛け作業を開始した。その後、被災者がトラック荷台のフレコン上を移動した際、セーフティブロックが親綱の端部留め金具に引っ掛かり、伸縮ロープが伸びきった状態となり、その反動で被災者は後ろ側に引っ張られ、高さ約2.5メートルから地面に転落した。	47	221	1	100 ～ 299
2017	10	15～ 16	パルプ置き場でパレットに乗っていたパルプ4段×2列をまとめていた番線を切った時、パルプがパレットよりはみ出ていたため、傾いてパルプ3個に押されて倒れパルプの下敷きになり受傷した。	20	611	5	100 ～ 299
			排水脱水機の搬送機の給脂作業を終え、戻る際に開口部の蓋を通っ				300

2017	11	15~ 16	ていた時にその蓋が腐食しており、脱落したことで一緒に被災者も約5m下へ転落し被災した。	29	521	1	~ 499
2017	12	14~15	段ボールシートの生産ラインで紙切れが発生した為、その復旧の通紙作業中、スムーズに紙が通らず、それを直そうと安全柵から身を乗り出す形で作業を行った為、誤って機械に右手が巻きこまれ負傷した。	49	163	7	50 ~ 99
2017	12	13~14	レシコンベルト取り替え中、レシコンベルトのガイドを取り付けられず、ベルトガイドが固定出来る位置まで元起しプーリーを回し、ベルトを移動させようとした。レシコンベルトを押す作業者の合図で手回しをした際、元起しプーリーを回そうとした被災者は、プーリー食い込み側にてVベルトを掴み回したため、ベルトが回った直後に左手環指がプーリーとベルト間に巻き込まれた。	56	121	7	100 ~ 299
2017	12	9~10	工場内において、林料を打碎する機械を清掃しているとき、回転部品のカバーをずらして清掃しており、別の部品の清掃も同時に行うため、回転部品のスイッチを入れた。カバーをずらしたままだったので大きな音がし、音を消そうと咄嗟にカバーを押さえようとしたところ、カバーと近くにあった棒の間に指を挟んだ。	59	169	3	1~ 9

出典：[https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen\\_pgm/SHISYO\\_FND.aspx](https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pgm/SHISYO_FND.aspx)(職場のあんぜんサイト)

Return to：[https://www.jisha.or.jp/international/topics/202206\\_06.html](https://www.jisha.or.jp/international/topics/202206_06.html)